

報 告

近畿病院図書室協議会第134回研修会

研修部

日 時：2014年9月27日(土) 10:00~17:00
 場 所：大阪市立総合生涯学習センター
 テーマ：病院図書館の機能向上—図書館システムとリポジトリ

プログラム：

1. オープンソースの図書データベースシステム
 Next-L Enju について
 独立行政法人物質・材料研究機構
 田邊 浩介 氏
2. リポジトリの登録作業（メタデータの記述）
 アグレックス 河原香代子 氏
3. 資料の電子化（スキャン、OCR）
 関西福祉大学 西本 朱美 氏
4. リポジトリにまつわる著作権
 大阪大学附属図書館 前田 信治 氏

参加者数：27名

後援：デジタルリポジトリ連合

病院図書館の機能向上をテーマに企画した第134回研修会の午前中は、Project Next-Lの開発するオープンソースの図書館管理システム「Next-L Enju」について、開発者の田邊講師に講義いただいた（図1）。

情報処理室にて一人一台のPCを使用し、デモサイト上で実際に図書の登録、貸出、返却といった機能を使用した。シンプルで使いやすい図書館システムで、まさに病院図書館などの小規模図書館に適したシステムであると感じた。また、開発についてのお話の中で、WebアプリケーションフレームワークのRuby on RailsやGitHubでの公開など、日頃学ぶ機会の少ない



図1 田邊講師による講義

Webやアプリケーション開発の話題にも触れることができた。質疑応答ではたくさんの質問が寄せられ、興味をもった参加者が多くいることを実感した。今後、病院図書館での導入が広まることを期待したい。

午後は、機関リポジトリの実務について3名の講師より講義いただいた（図2）。

まず、リポジトリシステムに論文のメタデータを登録する方法を河原講師より講義いただい



図2 機関リポジトリの実務の講義

た。今回の研修会のためにアグレックスよりリポジトリのデモサイトを提供いただき、講義の中で「病院図書館」に掲載された会員執筆論文の登録を実演いただいた。このデモサイトは研修会終了後も10日間ほど提供いただき、自館に戻ってそれぞれが登録の練習を行うことができた。

次に、冊子体論文をスキャナでスキャンし、OCR処理をして電子化を行う方法を、西本講師より実演を交えながら講義いただいた。スキャンについては、解像度の違いによる見え方の異なりとファイルサイズの異なりを比較し、最適な設定方法を知ることができた。OCRについても、解像度ごとの精度の違いやメタデータに抄録のテキストを登録しておくといったポイントも知ることができ、大変参考になった。

最後の前田講師には、リポジトリ実務を想定した著作権について講義いただいた(図3)。

出版物の著作権許諾の確認方法や会員館の発行する病院紀要の投稿規定の検証を通して、リポジトリをする上でどのように準備を行い、判断、対処していくのかを学ぶことができた。前



図3 前田講師による講義

田講師には、他のリポジトリ講義の要所でもポイントを解説いただき、実務に生かせるコツや技を学ぶことができた。

今回取り上げた図書館システムも機関リポジトリも、共通するのは「利用者や研究者に対し、より良いサービス、環境を提供する」という考え方に基づく取り組みである。利用者の検索環境、情報ニーズはどんどん進化している。病院図書館も時代に合わせて進化していけるよう、研修部は学びのきっかけづくりをしていきたい。

(文責：藤原純子/洛和会音羽病院)